

各関係機関・団体長 様

愛媛県病害虫防除所長

病害虫防除技術情報（第 12 号）について(送付)

このことについて、次のとおりお知らせしますので、御参照の上、防除指導方よろしくお願
いいたします。

記

1 情報の内容 **かんきつかいよう病の越冬病斑の調査結果と防除の徹底について**

2 対象作物 かんきつ類

3 対象地域 県下全域

4 情報の根拠

(1) 2 月に伊予柑（夏秋消）を対象に行った越冬病斑の発生調査の結果、発生園地率は過去
10 年間で最も高く（図）、平年の約 1.5 倍となっている。また、地域別では東・中予で平年
より約 2 倍の高い発生園地率となっている（表 1）。

(2) 発病度も平年の約 2.4 倍と高く、特に東・中予では平年に比べ約 4 倍となり、多の発生と
なっている（表 1）。

(3) 甘平においては、発生園地率、発病度ともに伊予柑より高くなっているが、平年に比べ発
生園地率は約 1.4 倍、発病度は約 1.3 倍となっている（表 2）。

5 防除上の留意点

(1) 園地に残存する夏秋梢などの罹病枝葉をできるだけ除去し、病原菌密度を下げる。

(2) 防風垣や防風ネットを整備する。

(3) 春先感染防止対策として、発芽前の薬剤防除を徹底する。なお、IC ボルドー66D は、マシ
ン油乳剤との散布間隔を 14 日以上あけ、樹勢の弱い樹には使用しない（表 3）。

(4) はれひめ、愛媛果試第 28 号など本病に対する感受性の高い品種でも同様に対策を徹底す
る。

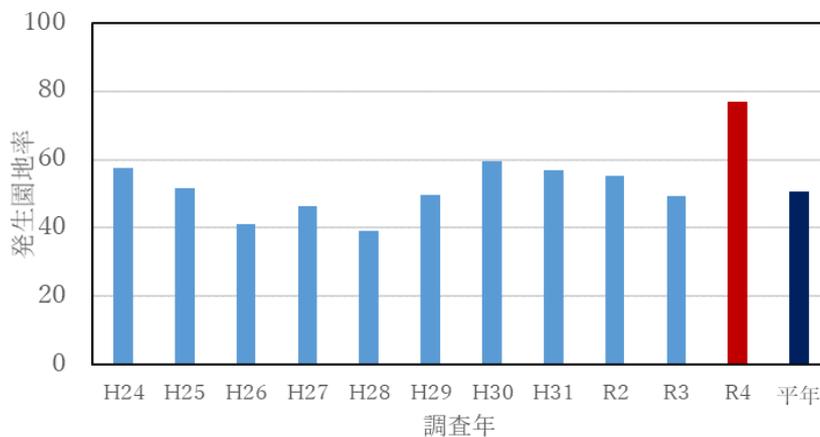


図 伊予柑におけるかいよう病の越冬病斑の発生推移

表1 伊予柑におけるかいよう病の越冬病斑調査結果

地域	調査園地数	発生園地率(%)		発病度	
		R4.2	平年	R4.2	平年
東予	48	81.3	41.2	13.5	3.1
中予	91	74.7	37.4	12.0	2.8
南予	39	76.9	75.8	8.2	8.9
県全体	178	77.0	50.7	11.6	4.9

1) 発病度 = $\Sigma(\text{甚} \times 7 + \text{多} \times 5 + \text{中} \times 3 + \text{少} \times 1) \times 100 / (\text{調査樹数} \times 7)$

2) 平年: 平成24～令和3年の10年間の平年値

表2 甘平におけるかいよう病の越冬病斑調査結果

地域	調査園地数	発生園地率(%)		発病度	
		R4.2	平年	R4.2	平年
東予	22	90.9	52.0	28.6	12.6
中予	30	96.7	70.1	26.0	15.9
南予	16	93.8	78.3	9.6	23.1
県全体	68	94.1	68.0	23.0	17.8

1) 発病度 = $\Sigma(\text{甚} \times 7 + \text{多} \times 5 + \text{中} \times 3 + \text{少} \times 1) \times 100 / (\text{調査樹数} \times 7)$

2) 平年: 平成28～令和3年の6年間の平年値

表3 発芽前のかんきつかいよう病に対する防除薬剤

時期	薬剤名	使用基準	
		濃度	使用時期/使用回数
発芽前 (3月中旬～下旬)	コサイド3000*	1,000倍	発芽前/—
	ムッシュポルドーDF*	500倍	—/—
	フジドーLフロアブル*	500倍	—/—
	クプロシールド*	1,000倍	—/—
	ICポルドー66D	40倍	—/—

1) 薬剤: 令和3年愛媛県農作物病害虫等防除指針より抜粋

2) *: 散布時に炭酸カルシウム剤200倍を加用